

主な出来事

【内政】

- 11日、ジョヌ首相は国民議会において所信表明演説を行った。
- 21日、ダカール市内オベリスク広場で野党連合「共和国防衛愛国戦線(FPDR)」が集会を開催し、出席したワッド前大統領はサル大統領の即時退陣などを求める発言を行った。

【外政】

- 6日、サル大統領はブルキナファソ政変にかかる ECOWAS コンタクト・グループ議長に選出された。
- 29日から30日にかけて、ダカールで第15回仏語圏国際機関(OIF)首脳会合が開催された。

【経済】

- 10日、英スコットランドの石油探掘業 CAIRN ENERGY 社は、サンゴマール深海鉱区(セネガル沖約100km)において第二油井を発見した旨発表した。
- 26日、国民議会において2015年度予算の審議が開始された。予算総額は前年比5.02%増の2兆8,690億3,200万 Fcfa となる予定。

【内政】

1 野党の動き(往電第1507号)

- セネガル民主党(PDS)をはじめとする野党連合「共和国防衛愛国戦線(FPDR)」は、21日にダカール市内ジェネラル・ド・ゴール通り及びオベリスク広場において大規模な支持者集会を開催する予定である旨明らかにした(5日 Populaire)。
- ダカール州知事は、仏語圏国際機関(OIF)首脳会合の開催を理由に、11月10日から12月5日まですべてのデモ、集会等を禁止する旨発表した(6日 Dakaractu)。
- 10日、国内外の複数の人権団体(セネガル人権リーグ、アムネスティ・インターナショナル、RADDHO 等)は連名でコミュニケを発表し、デモ及び集会の自由は憲法で保障されており、OIF 首脳会合の開催を理由にデモを禁止することは不当である旨主張した(11日 Sud Quotidien)。
- 14日、FPDR は、上記集会が許可された旨発表した(14日 Leral.net)。
- ワッド前大統領は、サル大統領による OIF 首脳会合開会式への招待に関し、カリム・ワッド元大臣の拘留を理由に出席を拒否する旨明らかにした(20日 Quotidien)。
- 21日、オベリスク広場で野党の支持者集会が予定通り開催された。ワッド前大統領の発言概要は以下のとおり(21日 AFP, 22・23日 Observateur)。
  - 実行に移す意図はないが、その気になればすぐにも大統領官邸の占拠やクーデターを行うことができる。

- サル大統領の即時退陣ならびに、2015年に大統領選挙を前倒し実施し、それまでの間、政権移行委員会を設けることを要求する。
  - サル大統領は前政権の不正追及に取り組んでいるが、そのような事実は存在しない。
  - サル大統領は、国内で石油開発を行っている企業の利権の30%を実弟のアリュウ・サル氏(注:ダカール州ダカール県ゲジャワイ市長)に与えた。
  - OIF首脳会合終了後72時間以内に、サル大統領が上記の事項に関し回答することを要求する。
- カリム・ウッド元大臣弁護団は、OIF 首脳会合に出席予定の各国元首及びジュフ OIF 事務総長に対し、20日付けで公開書簡を発出し、サル政権下においてデモ及び集会の自由などが侵害され、政治的な理由での逮捕及び拘束が横行している旨ならびに同元大臣に対する裁判の不当性を訴えた(26日 Quotidien)。
- 2 ジョヌ首相による所信表明演説(往電第 1446 号)
- 11日、ジョヌ首相は国民議会において、セネガル新興計画(PSE)実現のための経済政策を中心とする所信表明演説を行った(11日 APS)。
- 3 アリュン・ンダオ CREI 特別検事の解任
- 11日、法務省はアリュン・ンダオ財の不正取得抑制のための監査院(CREI)特別検事の解任及び後任としてシェーク・ティジャー・マラ氏を任命する旨発表した(11日 Seneweb)。
  - ンダオ CREI 特別検事解任の理由は、同検事がマディケ・ニオン元外相、アブドゥライ・ジョップ元経済・財政相及びンデラ・ウッド元セネガル空港局(ADS)局長夫人に対し、法務省の許可なく憲兵隊に逮捕命令を発出したことによるものとの由(12日 Observateur)。

## 【外政】

- 1 ブルキナファソ政変(往電第 1382 号, 同第 1414 号, 同第 1418 号)
- 5日、ワガドゥグを訪問中のサル大統領は、マハマ・ガーナ大統領、グッドラック・ジョナサン・ナイジェリア大統領とともにECOWAS 使節団として移行政権を掌握したジダ中佐と会談し、憲法停止の解除及び1年の政権移行期間を設けたのち2015年に選挙を実施することについて合意した(5日 Seneweb, 6日 APS)。
  - 6日、アクラで ECOWAS 臨時首脳会合が開催され、サル大統領はブルキナファソ政変にかかる ECOWAS コンタクト・グループ議長に選出された(7日 Seneweb)。
  - 11日、ワガドゥグを訪問中のサル大統領は、ニヤシンベ・トーゴ大統領とともに、ブルキナファソ政変にかかる ECOWAS コンタクト・グループ議長として、ジダ中佐及び市民社会、野党勢力及び憲法評議会と会談を行った(11日 APS)。
  - 17日、ワガドゥグを訪問中のンジャイ外相はジダ中佐と会談を行い、政権移行憲章の採択及びカファンド暫定大統領の任命に関するサル大統領の祝意を伝えた(18日 APS)。

- 21 日、ワガドゥグを訪問中のサル大統領は、カファンド暫定大統領就任式に出席した(22 日 Afrik.com)。
- 2 エボラ出血熱の流行に伴う国境閉鎖問題(往電第 1415 号)
- 2 日、コンデ・ギニア大統領は、ギニアはセネガルに対する食料供給国であるにも関わらず、セネガルは国境閉鎖措置を継続しているとして同措置を非難した(3 日 Seneweb)。
  - 6 日の ECOWAS 臨時首脳会合において、エボラ出血熱発生国との国境を閉鎖している国々(当館注:実質的にセネガル及びコートジボワールを指す)に対し、同措置の撤廃が勧告された(7 日 Seneweb)。
  - 9 日、サル大統領はエボラ出血熱発生国との国境閉鎖措置に関し、ECOWAS の勧告を遵守する旨発表した。また、同大統領は、海路の国境閉鎖は 10 日前から撤廃されており、今後この撤廃措置は段階的に空路にも拡大される旨述べるとともに、これまでの国境閉鎖措置はエボラ出血熱の拡大防止の観点から正当なものであった旨強調した(9 日 APS)。
  - 14 日、ジャロ内相は、同日よりギニア、リベリア及びシエラレオネとの海上及び空路の国境を再開する旨のコミュニケを発表した(14 日 AFP)。
  - セック保健相は、マリにおけるエボラ出血熱の発生に伴う同国との国境閉鎖は現時点では実施しない旨明らかにした(20 日 Soleil)。
- 3 第 15 回仏語圏国際機関(OIF)首脳会合(往電第 1471 号)
- 29 日から 30 日にかけて、第 15 回 OIF 首脳会合が開催された。
    - 同会合テーマは「仏語圏の女性と若者—平和の媒介者、開発のアクター」。
    - 29 日の開会式においては、サル大統領、カビラ・コンゴ(民)大統領、ケイタ・マリ大統領、ドアン・ベトナム副大統領、オランド仏大統領、ハーパー・カナダ首相、コンデ・ギニア大統領、ボンゴ・ガボン大統領、マハラブ・エジプト首相、ウワタラ・コートジボワール大統領、デビ・チャド大統領、アルベール 2 世モナコ大公、ビヤ・カメルーン大統領、ポコヴァ・ユネスコ事務局長(国連事務総長代理)、ジュフ OIF 事務総長がスピーチを行った。その他出席者は、イスフ・ニジェール大統領、ンクルンジザ・ブルンジ大統領、ヴァス・ギニアビサウ大統領、ヤイ・ボニ・ベナン大統領、ミシェル・ベルギー首相、ンゲマ赤道ギニア大統領、ンゲソ・コンゴ共和国大統領、ブルカルテール・スイス大統領、ラジャオナリマンピアニナ・マダガスカル大統領、カファンド・ブルキナファソ暫定大統領、アブデル・アジズ・モーリタニア大統領、ピュリヤグ・モーリシャス大統領、ジョマア・チュニジア首相、クイヤール加ケベック州首相、デモット・ベルギー仏語共同体首相など。
    - ジュフ事務総長の後任として、元カナダ総督のミカエル・ジャン氏が選出された(任期 4 年)。同氏はハイチ系カナダ人で、OIF において初の女性事務総長となる。対立候補は、ブヨヤ元ブルンジ大統領、ドゥ・レストラ元モーリシャス外相、ロペ駐仏コンゴ共和国大使、ンフム元駐英赤道ギニア大使であった。

#### 4 その他

- 15日、サル大統領は NEPAD 議長として豪ブリスベンで開催された G20 首脳会合に出席し、エボラ出血熱の流行が深刻である国は 3 か国に過ぎないにも関わらず、アフリカ大陸全体が影響を受けているかのような印象を与えており、観光業をはじめとする経済に打撃を与えている旨訴えた(17日 Seneweb)(往電第1428号)。
- 18日、バチカン市国を訪問中のサル大統領は、フランシスコ・ローマ法王、パロリン国務長官及びマンベルティ外務長官と会談を行った(18日 Seneweb)。
- 23日、セネガルを訪問中のマラ・マリ外相はジョヌ首相と会談を行った(24日 Soleil)。

#### 【経済】

##### 1 金融

- 2015年、セネガルにおいてダカール銀行が新開設されるほか、モーリタニア商工業銀行、サンタンデール銀行(スペイン)、ナイジェリア銀行及びガボン・フランス国際銀行がそれぞれ支店を開設する(6日 Temoin, Quotidien)。

##### 2 サンゴマール油田

- 9日、サル大統領は、サンゴマール海底油田に関し、石油会社に採掘権を与え、利益を分割する契約を締結した旨明らかにした(10日 APS)。
- 10日、英スコットランドの石油採掘業CAIRN ENERGY社は、サンゴマール深海鉱区(セネガル沖約100km)において第二油井を発見した旨発表した(11日 SudOnline)(往電第1397号)。

##### 3 2015年度予算(往電第1492号)

- 26日、国民議会において2015年度予算の審議が開始された(26日 APS)。
  - 予算総額は前年比5.02%増の2兆8,690億3,200万Fcfaとなる予定。同予算は2%のインフレ率、5.4%の経済成長率、国内総生産8兆2,342億Fcfa(前年比2.8%増)等のマクロ経済予想に基づいて策定された。
  - 歳入の71%を税収、18%を贈与及び借款が占める。
  - 歳出総額2兆7,767億8,200万Fcfaのうち、経常支出は1兆8,145億9,600万Fcfa(うち、5,980億1,000万Fcfaが債務返済、5,100億Fcfaが公務員等給与、7,065億8,600万Fcfaがその他に充てられる)、投資支出は9,621億8,600万Fcfa(うち5,571億8,600万Fcfaが政府予算から、4,050億Fcfaが海外からの資金移転によって賄われる)。

(了)